

現状や問題点

仕事

- ・仕事がない
- ・給料が安い

暮らし

- ・買い物や交通が不便
- ・病院への救急搬送時の際に時間がかかり不安である
- ・買い物できる場所がない
- ・大学、専門学校がない（結果、転出する）
- ・娯楽がない
- ・家賃が高い
- ・いずれ車を運転できなくなる不安がある（高齢者）

コミュニティ

- ・近所付き合いがわずらわしい（特に若者）
- ・自治会のルールがわかりづらい
- ・地域のルールを教える人がいない
- ・子どもへのかかわりが薄くなった
- ・老いて1人で住めなくなる

移住環境

- ・移住者の転入時、住居等の受け皿の準備ができていない
- ・空き家と耕作放棄地が増えている
- ・移住者向けのPR不足
- ・日田の良いところを知らない
- ・売りになるものが見えない
- ・移住の方法がわからない（移住者側）

主な意見やアイデアなど

仕事

- ・廃校を活用した企業支援
- ・農地を市が買い上げる（農地活用）
- ・耕作放棄地の活用（薬草プロジェクト、ストーリー性のある米の栽培記録など）
- ・農林業の仕事体験
- ・SOHO講座を行い起業を促す

コミュニティ

- ・移住マニュアルを作る（自治会のルール等）
- ・移住者同士のコミュニティネットワークをつくる
- ・地域に合った移住コーディネーターの設置
- ・ふるさと納税の拡大（還流制度）
- ・地域アドバイザー創設
- ・地域で応援隊

移住環境

- ・各地域単位の空き家バンクの創設
- ・空き家の改修、家賃補助
- ・60歳以上の人に対しての家賃補助などの助成
- ・日田材を使つての空き家改築
- ・空き家の3ヶ月無料貸し出し（お試し住宅）
- ・お試し移住（小スペース、小さな農地）
- ・とりあえず来てもらい体験してもらう
- ・住居、仕事を仲介してくれる人（移住コーディネーター制度）
- ・地域を紹介するシステム
- ・移住者の声を聞く
- ・田舎の良さをアピール
- ・農産物の認証制度を創設して「日田の食の魅力」をPR（食べる広告）
- ・観光者からの意見を集約して移住者にアピール
- ・「おんせん県おおいた」に乗っかる
- ・年代を絞って旅行に来てもらう（定年間近の世代など）

その他

- ・お金では換えられない価値観（里山暮らし）
- ・10年後を見た教育。自分の仕事は自分で作る。

発表

移住者を増やして定住を促進するためには、移住先で生活していくための「仕事」と「住居」の確保が大事。また、移住者を呼び込むためには、日田の魅力を発信してPRしていくことも重要である。よって「移住者への暮らしの支援」、「移住者と地域コミュニティをつなぐ支援」、「移住を促すためのPR」に分けて整理。

移住者への暮らしの支援

- ①市営住宅の入居要件の緩和（住居の確保）
- ②60歳以上の家賃補助（住居の確保）
- ③日田材を活用した空き家の改築（住居の確保）
- ④各地域単位の空き家バンクの創設（住居の確保）
- ⑤SOHO講座による起業の支援（仕事の確保）
- ⑥遊休農地、耕作放棄地の買い上げ（仕事の確保）

移住者と地域コミュニティをつなぐ支援

- ①移住コーディネーター制度
 - ・地域を紹介していくとともに、移住者と地域をつなぐ役目を果たす「移住コーディネーター」制度を創設。

移住を促すためのPR

- ①お試し移住（住居の確保）
 - ・移住を考えている方に対して、とりあえず来ていただき、試験的に移住を体験してもらう。
- ②移住世代へ向けた旅行の企画
 - ・定年を間近に控えた世代や、子どもが入学する前の子を持つ親の世代をターゲットとして移住をアピールする。
- ③食べる広告
 - ・日田の農産物の認証制度を創設し、都市圏へ日田の「食」の魅力をPRすることにより、都市圏からの移住を促進する。